



昭和十一年十月三十日

鎮海防備隊機雷爆發事故査問會

委員長 海軍少將 石塚 千俊

鎮海警備隊司令長官殿

鎮海防備隊爆發事故査問會報告

首題ノ件 調査ヲ遂ゲ査定書類相添及報告候

(査定書副本及證憑書類添)

終

海軍

副本

鎮海防備隊機雷爆發事故

査定書

1195

査定書

鎮海防備隊ニ於ケル機雷爆發事故ニ関シ本査問會ハ  
調査ノ結果査定スルコト左ノ如シ

第一事實

(一) 事故ノ概要

昭和二十年十月十五日午後二時四十五分頃鎮海防  
備隊内繫船池北側山岸壁上ニ海中投棄處分ニ付  
スバクノ堆積シアリタル各種機雷合計七十個が二  
回ニ亘リ爆發シ死傷二百七十名、建造物全壊半  
壊各五棟、船艇ノ沈没破壊合計二十六隻、損害約  
百八十一萬九千三百円ニ上ルノ事故ヲ生起シタリ

(三) 事故前ノ状況

(1) 現場ノ模様

現場ハ鎮海防備隊南側ニ位スル同隊敷木船池北側  
陸岸ニシテ同現場陸岸ノ岸壁ハ石ナサ約一米ノ  
コンクリート造壁端ヨリ約三米ノ距離ニ之ト平行  
シテ約五米間隔ニ高サ約三十釐ノ鐵製ボルトヲ  
一米平方ノコンクリートヲ蓋座トシ地中ニ固着  
セシメアリタリ 現場及同附近ノ地理及施設ノ布  
置状況ハ本査定書添付第一圖及第二圖ノ通

(2) 作業ノ状況

今次停戦ニ基テ終戦事務カトシテ米第七

艦隊司令長官ヨリ指示セラレタル彈火藥類  
海中投棄作業遂行ノ爲本年十月一日警備府  
命令ニヨリ保管廳長ヲ陸上作業指揮官ニ、鎮海  
防備隊司令ヲ陸上作業指揮官ニ命ゼラシ居タル處  
鎮海海軍軍需部ニ於テハ本年十月三日ヨリ其ノ  
保管ニ係ル彈火藥類ニ對スル右作業ヲ開始シ  
第十六號掃海特務艇外五隻ノ小型船艇ヲ配當  
セラシテ毎日午前八時ヨリ之ニ右彈火藥類ヲ搭  
載シ投棄海面（距離約三十哩水深四十尋ノ個  
所）ニ到リ投棄処分シツツアリしが、同月十五日迄  
ニ總重量千二百噸ノ彈火藥類ヲ処分スベ

督促セラシ居タルモ彈火藥類ノ多クハ隧道内  
 ニ分散格納セラレ居タルニ加ヘ陸上輸送力負弱ナ  
 リレコト及米軍ニ對スル作業狀況ノ書類報告手  
 續報復雜ナリレコト等ノ事情ノ為作業速度  
 ハ豫定期日ニ遅レ勝ケナリキ 従ツテ作業ヲ進  
 捗セシムルニ為彈火藥類ハ一應格應納隧道ヨリ  
 防備隊駁船池陸岸ニ集積シタル後之ヲ全船  
 艇ニ積込ムコトナシ居リタリ 右作業員トシ  
 テ毎日平均約五十名鎮海防備隊ヨリ兵員ヲ派  
 出セラシ軍需部第一課勤務海軍上等兵曹  
 福田英夫ハ同課兵器主任海軍少尉永吉邦

盛ノ命ヲ承ケ現場作業ヲ監督シ居タリ

然レ共同部ノ専門的彈火藥取扱係員ハ右兩

名ノミナルニ作業量ハ前記ノ如ク大ナルニ為日々變

更スル現場作業兵員ニ對スル作業監督火藥

取扱注意等ハ徹底ヲ欠クモノアリタリ

(一) 彈火藥類ノ狀況

事故直前現場ニ在リタル彈火藥類ハ九ニ式機

雷二十九個、米國式機雷二個、九三式機雷二十五個

五號改一機雷十五個(合計七十個)、八八式爆藥

約三千噸及ガリント系火藥五噸ニシテ右ハ約

百米ノ間ニ六團トシテ集積シアリタリ 其ノ

関係位置、詳細ハ別図第三ノ通

右機雷ハ總テ信管ヲ抜キ其ノ他ノ火薬ハ總テ箱入リナリシモ長期隧道内ニ格納シ在リタト運搬中ノ取扱粗暴ナリシトニヨリ外箱及内部包装紙破損シタルモ若干アリテ集積場所ヨリ山岸壁上「ピット」附近ニ亘リ相当地面レ居リタリ

(三) 事故発生ノ經過

事故當日午後一時五十分頃彈火薬類、海中投棄作業ヲ終ヘタル同防備隊所屬第十六號掃海特務艇が敷糸船池内ニ入り来リ同陸山岸ニ横付繫留中、第十八號駆潜特務艇(掃海作業專



務ニシテ彈火藥類處理作也(まニ從事セバ)ニ信號  
 連絡ノ上同般右舷ニ横付シタリ 出陣時陸岸ニハ  
 運搬作業員約三十名休憩シ居タルモ同掃海特  
 務艇が接岸シ來レルニ向ラズ一向同般ノ繫留索ヲ  
 取ラントスル氣配ヲ示サザリレニヨリ、偶々右舷第十  
 號艇潛特務艇艦橋ニ在リタル同般乗組海軍上  
 等水兵深谷清一及原口等ハ之ヲ見兼テ直ニ陸岸  
 ニ飛ビ移リテ第十六號掃海特務艇ヨリ繫留  
 索ヲ取り陸上ノ五番ピットニ掛ケタルが同般艇長  
 海軍中尉由里直行ノ指示ニ依リ之ヲ外ニ東側  
 四番ピットニ掛ケントシテ両足ヲ踏張リタル際深谷

上水ノ左足ニ穴ヲケタル半靴裏ニテ同位ト周圍ノ  
コンクリートト上ニ穿レサタケ居タルハ八式爆薬粉  
未ヲ強ク摩擦シテ發火スルニ至リ、火焰ハ瞬時  
ニ擴大シテ包装ノ毀損シ露出セル大量ノ同爆薬  
箱ニ延焼セリ

深谷上水ハ發火ト同時ニ略袴ニ延焼シタル為驚  
キテ避退セリ 又撃船池ノ山岸壁ニ横付ケ居リ  
シ船艇ハ危険ヲ豫想シテ撃船池外ニ避退  
セリ 此ノ時消火ニ當ルベク防備隊當直將校ノ指  
揮スル同隊兵員等が馳セ付ケタルモ断水ノ為消  
火意ノ如クナラス、其ノ後出動シタル派遣防火

隊ノ努力モ及バズ、火薬燃焼ノ爲附近ニ積載ミアリ  
リタル前記機雷次第ニ加熱シ、同日午後二時ニ由  
令員、同陸上東側ニ在リタル五號改一及九三式機  
雷合計四十個同時ニ車轉發シ引續キ約五秒後  
約三十七米東側ニ在リシ九二式機雷米國機雷合  
計三十一個車轉發セリ

(四) 事故及發生後ノ狀況

前後二回ニ亘ル多數機雷ノ車轉發ニ依リ現場  
附近ニ於テ消火作業ニ從事シ居リタル當道  
將校外多數兵員ハ死傷シ現場ヨリ約百米以  
内ノ諸建造物ハ悉ク全壊モ若クハ半壊シ、其

ノ下敷ト爲リテ死傷シタル者又相吉田數ニ上リ  
現場監督タリシ刑記福田英夫モ即死アリ  
繫船池ニ在リテ避退澤カリシ船艘モ全壞若  
クハ半壞スルニ及ビタリ

(事故後ノ現場附近ニ於ケル破壞状況ニ付テハ  
別紙第二圖及証憑書類中現場写真頁五葉  
参照)

(五) 損害

(1) 人員ノ損害

(1) 死者(行方不明ヲ含ム) 六十八名

内譯

准士官以上 五名

下士官兵 六十三名

(2) 傷者 二百三名

内譯

重傷 六十名

輕傷 百四十三名

(b) 物的損害

(1) 營造物、損害

防備隊建造物中全壞五棟半壞五棟

(損害額百五十萬圓)

(2) 船隻、損害:

同隊所属船艇中全壊(現没)十五隻

半壊 十三隻

(損害額約三十一萬九千三百円)

合計百八十一萬九千三百円

第二原因

既述せん如く本件ノ原因ハ外形的ニハ事故當日

ニ於ケル深谷上水ノ半靴裏ノ摩擦ニ依ル發火

ニ起因スルモ、之ガ直ニ機帶轟及後ノ結果ヲ生シ

シメタル總テノ原因ト認ムルヲ得ズ次ノ諸因ノ

競合アリト認メラル即チ

(一)火薬運搬取扱粗漏ナリシニ爲シ此裝破損ニ

粉末相当量と等し格々而りモ之ヲ除去シ在  
ラザリシコト

(三) 火薬及機雷ヲ同一場所ニ直接ニテ集積シ在  
リシコト

(三) 火薬取扱上ノ注意一般作業員ニ徹底シ居ラ  
ザリシコト

(四) 引火危険物ノ作業場ニ有効ナル應急消火  
準備ナカリシコト

ニシテ連日ノ好天気ニテ火薬ノ引火感度鋭敏  
トナリ居タルコトモ又本件事故發生ヲ助成シタ  
ルコト認メラル

以上ノ事安貞並ニ原因ハ訖憑書類中關係者ノ録  
取書及諸調査ニ依リ之ヲ認ム

第三 主見任ニ関スル意見

(一) 海軍上等水兵深谷清

同人ノ行ニ爲ハ本件事故ノ因ト爲リタルモノ  
ルガ、同人ハ揮火藥處理作業ニ従事シタル  
コトナク、入港隣接セル第十六號掃海特務  
艇ノ爲前記状況ニ於テ殿不留守ヲ取ラント  
シタル莫及陸上作業員が半靴ノ儘作業  
ヲ爲シ居リタル安貞狀ニ照シ、同人が半靴  
ヲ脱セカリシコト及半靴裏ノ摩擦ニ依ル發



火ノ庫ヲ直ニ機雷車陣火死ニ對スル過失トシテ  
刑事事書其任ヲ負ハシムルコト相高田十ラザルモノ  
アルヲ以テ、單ニ火薬集積場所附近ニ於テ  
不注音心ニ依リ火氣ヲ及殺シタル莫ニ對シ嚴  
重懲罰可然モノトス

(二) 海軍上等兵曹 福田英夫

同人ニ本作業ノ陸上関係現場監督ニ從事  
シ居リタルヨリ、本件事故ガ火薬運搬集  
積其ノ他作業上ノ粗漏ニ起因セルコト敘上  
ノ如クナルヲ以テ其ノ職務上其ノ主責ヲ免レガ  
ルモ既ニ本件事故ニ依リ殉職シタニ以上之ヲ

由スヲ得ズ

三、海軍少尉永吉邦盛

同人、終戦前より鎮海海軍軍需部第一

課ニ兵器主任トシテ勤務シ本作業ニ對シ

テハ前記英夫ヲ指揮シ直接作業監督ノ

任ニ當リ居ル者ナルヲ以テ、前記第一

(二) 記載、如ク緊要急作業ノ為諸所ノ現

場立會及書類作成等ニ忙殺セラシ居ル

ル實情狀ニ鑑ミ情狀酌量スヘキモノアリト

雖モ、前記原因ニ照シ職務上其ノ義務

ヲ盡シテト爲スヲ得ズ四廠重懲罰スルヲ

相當ト累ス

(四) 海軍中佐佐藤正

同人亦終戦前ヨリ軍需部第一課勤務  
部員ニシテ右作業ニ對シテハ陸上作業指揮  
官多シ部長ヲ輔佐シテ之が全般的指導監督  
責任ニ當リ居リタルヲ以テ、本件及發生ハ  
前記原因ニ照シ部下ニ對スル指導監督  
ノ命令ナラハルニ因ルモノト謂フヘク相當懲  
罰可與モト思料ス

(五) 海軍大佐山岩高賢治

同人ハ鎮海海軍軍需部長トシテ右彈



昭和三年十月三十一日

鎮海防備隊内機雷爆發事故査問會

委員長 海軍少將 石塚千俊

委員 海軍大佐 一色高富

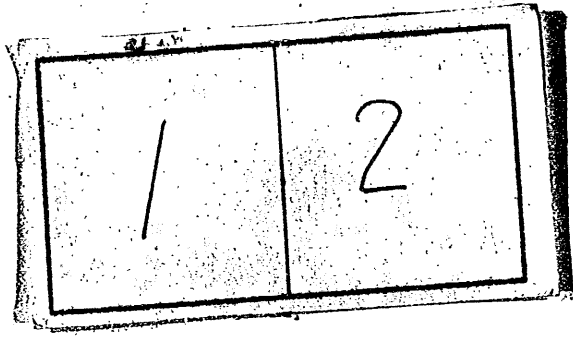
委員 海軍少佐 大田真五夫

委員 海軍大尉 三原健三

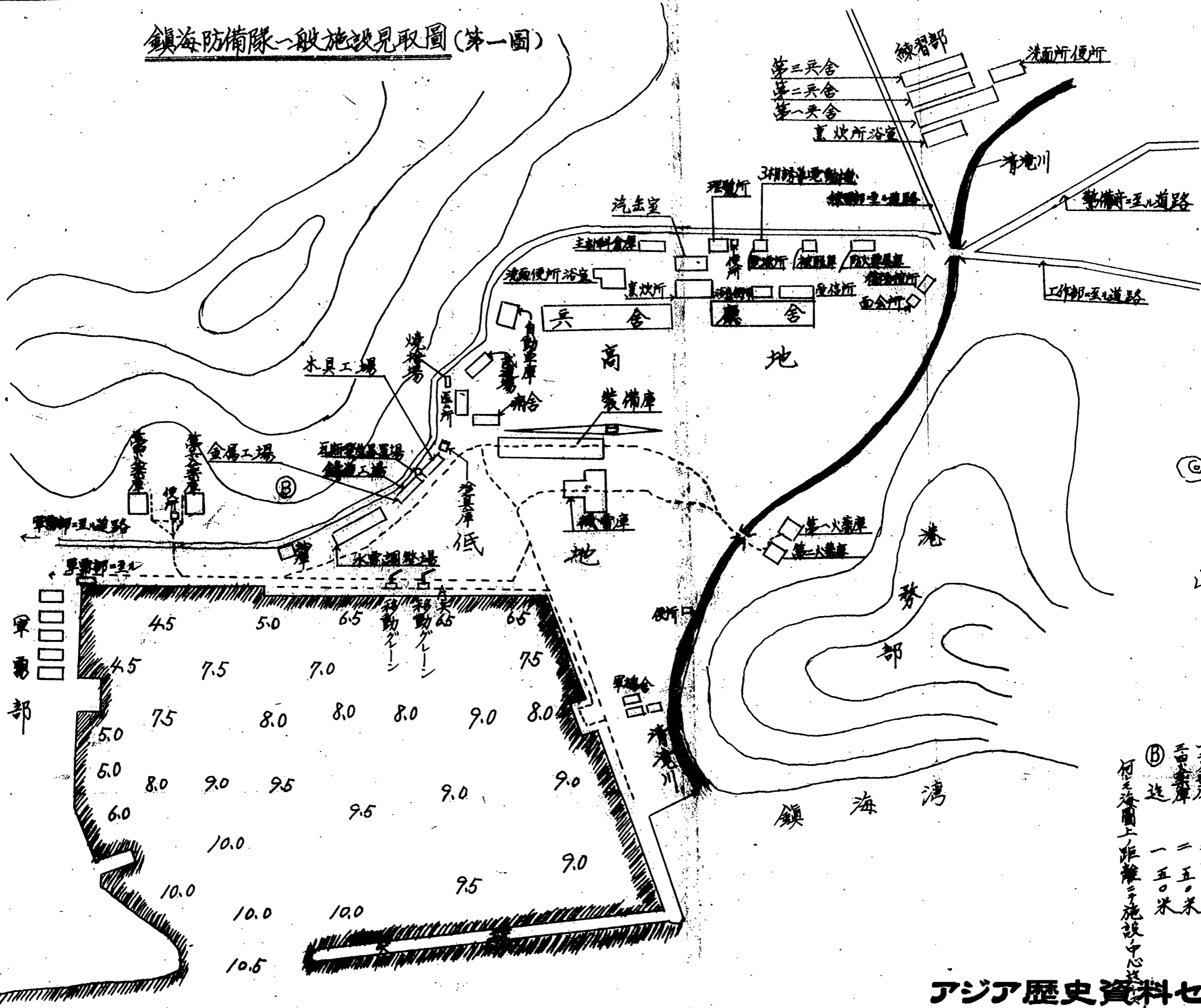
委員 海軍大尉 白川保

委員 海軍大尉 藤川長造

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

鎮海防備隊一般施設見取圖(第一圖)



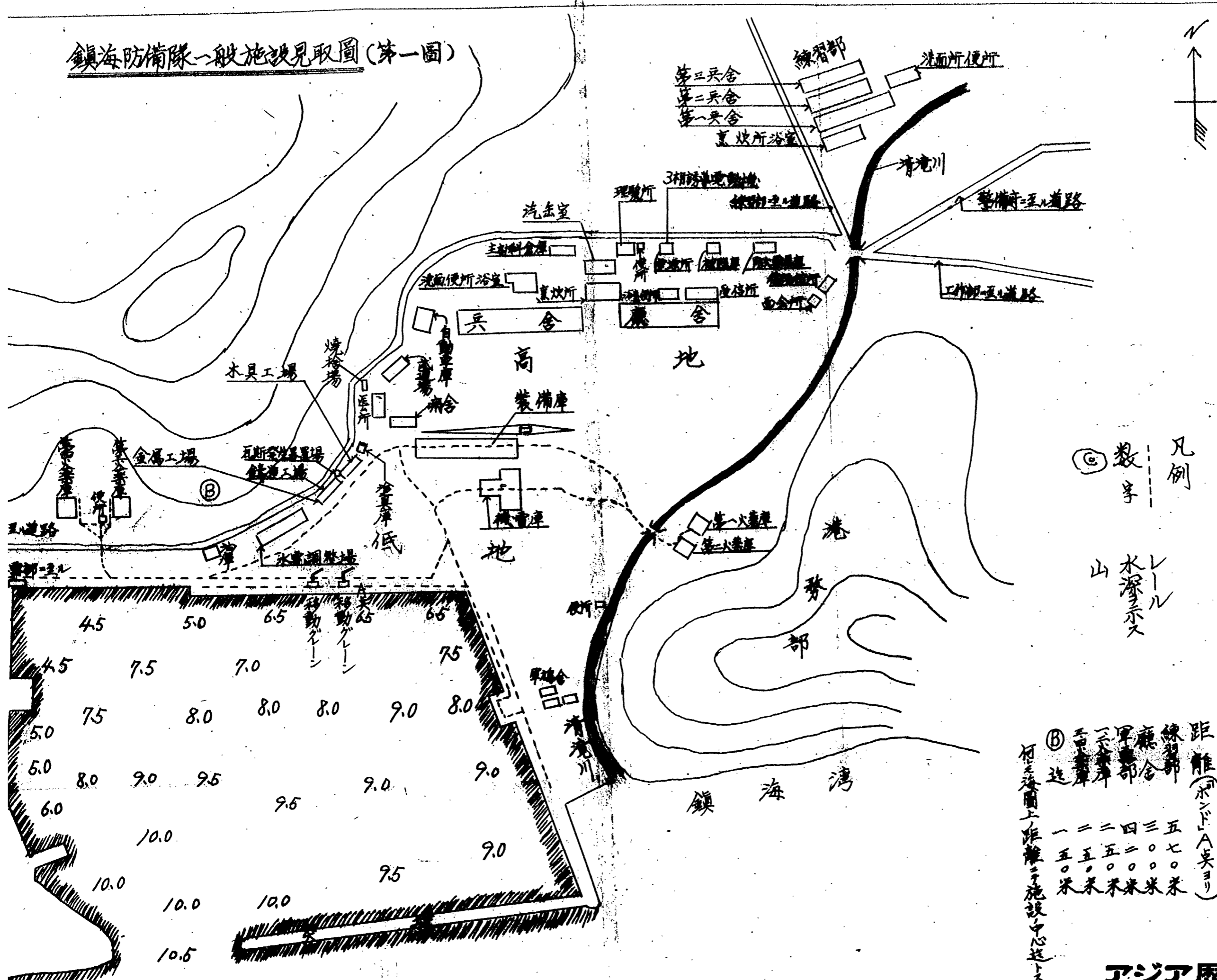
軍部  
部

数字  
山  
水深  
レベル

①  
何ヶ所  
上距離  
施設中心

一	二	三	四	五
五	五	五	二	三
〇	〇	〇	〇	〇
米	米	米	米	米

鎮海防備隊一般施設見取圖(第一圖)

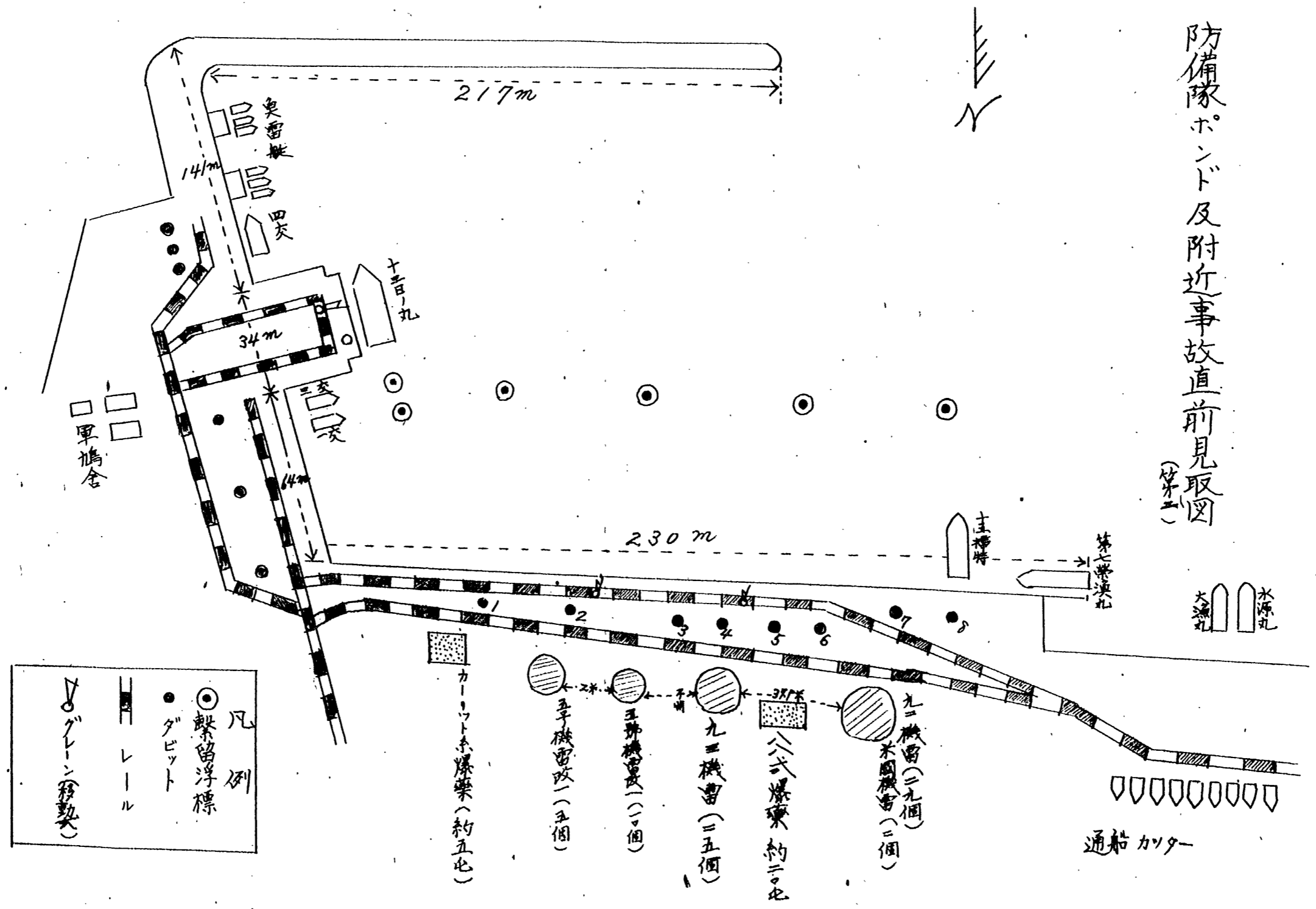


凡例  
 数字  
 水深  
 レール  
 示ス

距離 (ポンド A 尺ヨリ)  
 練習部 五七〇米  
 倉庫 三〇〇米  
 兵舎 二〇〇米  
 工場 一五〇米  
 ② 迄  
 何れも海面上距離を施設中心迄ス



防備隊ポイント及附近事故直前見取図  
(第二)



1217



副  
本

昭和二十年十月十五日

機雷爆発事故證憑書類

査内会

1219

調査報告	調査	〃	二〇	陸軍部
爆水蒸気爆発事故報告	爆水蒸気爆発事故報告	〃	一六	防備隊
火薬性能調査報告	火薬性能調査報告	〃	一五	
死傷者調査報告	死傷者調査報告	〃	一三	
爆発事故概報	爆発事故概報	〃	九	
気象状況調査報告	気象状況調査報告	〃	八	
施設物調査報告	施設物調査報告	〃	七	
死傷者調査報告	死傷者調査報告	〃	五	
事故報告書	事故報告書	〃	四	
命令	命令	〃	一	

目 録

〃	録 取 書	現場 写真 集	見 本 書	見 取 調 査 作 成 書	爆 発 機 械 調 査 結 果 報 告	〃	〃	〃	〃	〃
六 八	三 八	三 三	五 三	四 五	三 八	二 七	二 六	二 四	二 三	二 二
松 岡 三 郎	由 米 直 介			〃	白 川 季 久	〃 保 女 隊	〃 軍 需 部	〃 文 字 学 部 駐 留 隊	〃 軍 需 部	〃 海 軍 少 将 官

計  
冊

右	船機換官額調査文件送合	録	系象林三失元報出	雜物被雷調査文件送合	〃	〃	〃	〃	〃	録
甲各		取	書							表
一〇七	一〇五	九七	九五	九二	八九	八五	八一	七六	七三	六九
		永吉邦成	三永天女	池田部長	中村 孝男	一色 貫一	平山 三郎	佐藤 正	深谷 薄一	永井 口 斐


1223



鎮海警備府命令第二〇號

昭和二十年十月十七日

鎮海警備府司令長官 山口儀三朗

鎮海警備府命令

左ニ依リ査問會ヲ組織ス

一 査問事件

昭和二十年十月十五日 鎮海防備隊内ニ於テ發生セ  
ル 機雷爆發發事件

二 委員長委員

委員長

海軍少將

石塚子俊

委員

海軍大佐

一色高富



同  
書記

海軍法務少佐 太田眞佐夫  
海軍法務兵曹長 中村文夫

(終)



鎮海警備府命令第三號

昭和二十年十月十八日

鎮海警備府司令長官 山口儀三朗

鎮海警備府命令

鎮海警備府命令第二號中、二、委員長及委員

ニ左ヲ追加ス

委員 海軍大尉

藤川長造

同

同

白川保

保

(終)



3



鎮海警備府命令第三三號

昭和二十年十月十九日

鎮海警備府司令長官山口儀三朗

鎮海敬言備命令

鎮海敬言備府命令第二〇號中二一委員長及

委員二左ヲ追加ス

委員 海軍法務大尉 三原健三

終

海軍



鎮海機雷査問會機密第一號

昭和二十年十月十八日

鎮海防備隊機雷爆發事故査問委員會

委員長 海軍少將 石塚 千俊

鎮海海軍軍需部長殿

事故報告提出方針照會

査問審議上必要ニ付鎮海防備隊ニ於ケル機雷爆發事故報告(長官並ニ大臣宛)ノ寫三部明十九日中ニ提出相成度

(終)

海軍



鎮海防備隊司令部

昭和二十年十月十九日

鎮海防備隊機雷爆発事故

査問會女員長

鎮海海軍病院長殿

死傷者調査方針照會

査問審議上必要ニ付当該事故ニ依ル人の被害ニ  
関スル調査別紙要領ニテ至急回答ヲ得度

(別紙添)





別紙

昭和二十年十月 日

鎮海海軍病院長

鎮海防備隊機雷爆發發事故

査問會委員長殿

死傷者調査件回答

本年十月十五日 鎮海防備隊ニ於ケル機雷爆發發事故ニ  
依リ生ジタル死傷者ノ狀況調査結果左記ノ通ニ有長候

記

一死者(即死及重傷死ヲ含ム)

名

内訳	准士官以上	所轄別	防備隊	軍需部	下士官、兵	二行方不明	三傷者	内訳	重傷	軽傷
		名	名	名						

鎮海海軍施設部 昭和二十年十月十九日

昭和二十年十月十九日

鎮海防備隊機雷爆發事故

査問會委員長

鎮海海軍施設部長殿

施設物被害調査方針照會

査問審議上必要ニ付本月十五日鎮海防備隊ニ於ケル  
機雷爆發事故ニ依リ生ジタル防備隊内施設外  
施設ノ被害状況並損害額調査上至急回答ヲ得度

海軍



鎮海防備隊司令部

昭和二十年十月十九日

鎮海防備隊機雷爆發事故

査問會委員長

鎮海海軍通信隊司令殿

氣象狀況ニ関スル件照會

査問審議上必要ニ付本月八日ヨリ十五日迄ノ一週向鎮海ニ於ケル日々、氣象狀況(晴雨温度風向風力湿度等)詳細回答ヲ得度。



寫

鎮海軍需機密第四号ノ二〇九

昭和二十年十月十五日

鎮海海軍軍需部長

鎮海警備府司令長官殿

爆發事故概報

一日時 昭和二十年十月十五日 一四一五頃

一場所 防備隊木下岸壁

一原因 未詳

一被害状況

ハ人員  
ハ危篤者(死亡)

主中尉 小松道衛(印三一三五)

主少尉 佐志田啓次郎(印三五八三)

二、行方不明者

海軍

上曹 福田英夫 (在志水四五三八)

(三) 重傷者

中尉 坂本繁之 (少 九八四)

一機曹 吉田林三 (吳徴機二五九三六)

書記 米原 馨

(四) 物件

(一) 八八式爆薬二〇乃至三〇丸焼失機雷約六〇個爆發

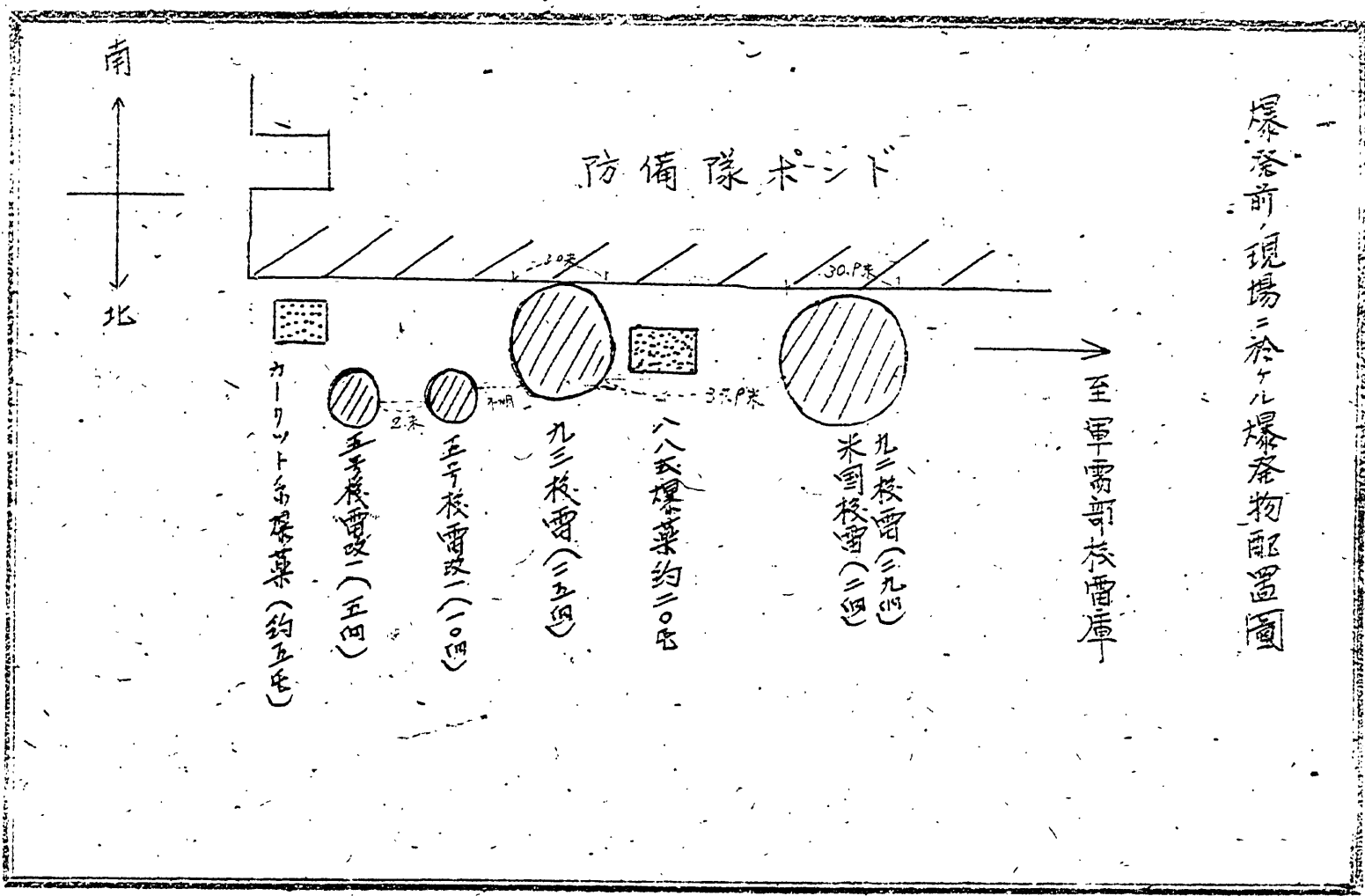
(二) 第一、二、三、四機雷庫、荷造作業場、電纜庫、機雷庫

事務室各小破

本部縣洞地帯各建物、扉、ガエ、天井一部破損

(終)







大鎮海軍

通報人 事務部長

發鎮海軍 事務部長

英領事館

代人事務部長  
英人事務部長

十月十五日一四一五頃爆發物投棄作業、鎮海海軍軍需部在庫爆發物ヲ

鎮海防備隊ポント岸壁ニ運搬作業中岸壁ニアリタルカーリット爆薬ヨリ火災ヲ

發生ニ附近ニ運搬レアリタル機雷爆發セリ

本事故ニ依リ現場ニ於テ作業監督中ノ中尉小松道衛(シニ三五)

中尉依志田啓次郎(シニ三五七八三)上曹福田英夫(依志水四五三四八)危篤絶望

(死ニ)中尉坂本繁之(シニ九八四)一機曹吉田林三(吳望機ニ五五五六)重傷セリ

重傷セリ

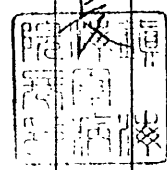
(死ニ)

海軍

13

昭和二十年十月十九日

鎮海海軍病院長



鎮海防備隊機雷爆發事故

査問會委員 長殿

死傷者調査ノ件回答

本年十月十五日鎮海防備隊ニ於ケル機雷爆發事故ニ依リ  
生シタル死傷者ノ狀況調査ノ結果別紙ノ通ニ有之候

(別紙一葉添)

海軍

1243

44

一死者(即死及重傷死を含む)六八名

内譯

准士官以上

所轄別員數	
防備隊	三
軍需部	二

下士官兵

六三名

二行方不明

二三名

三傷者

内譯

重傷

六〇名

輕傷

一四三名

(終)

海軍

比羅海枝雷查同會機密 第五號

昭和二十一年十月二十日

比羅海防備隊枝雷爆発事故

查同會委員長

鎮海海軍軍需部長殿

火薬性能ニ関スル件照會

査同審議上必要ニ付左記火薬類ノ引火性能ノ  
詳細至急回答ヲ得度

記



26



昭和二十年十月十六日

鎮海防備隊司令

鎮海警備府司令官殿

爆薬爆発事故報告

一日時 昭和二十年十月十五日一四二五頃

二場所 當隊ポイント岸壁

三原因 未詳

四被害状況

人員

船艇

海

軍

										三 管 造 物
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	------------------

1248



12

人員		傷		死亡		行方不明	
推士官以上	下士官兵	重傷	輕傷	死亡	行方不明	重傷	輕傷
九	九	四	七	三	二	一	五
(三) 船艇 艇名 被害概況 掃持一五 全艇三箇所破損(変形)機械使用不能 第三日丸 艇内内板及支柱等破損後部より漏水シ 第一交通艇(内火艇) 工作部淺瀬ニ葉上カ(満水) 火災後沈没							

海軍

全 一三三号	全 一三二号	全 一三〇号	全 一二九号	隼艇 一二号	水源 掃丸艇	第七号 掃丸艇	第五号 大掃丸艇	カッター 七隻	通船 五隻	第三号 交通艇 (内火艇)
上甲板直線約十耗ノ破孔一アリ		四機械室天蓋メリ込ミ	ハ全艇「バ」装置使用不能		船橋附近小損	破孔浸水ヨリ沈没	機械陸揚中機械埋没	全壊	全壊	前部上甲板附近大破

28

真雷艇五五号	回松窓羅針儀等破損後部燃料タンク室破孔
全 五五号	回松窓前部燃料タンク室清水タンク室機械室
全 五五号	回松窓四維針儀船橋出入扉及機械室上甲板前部
	甲板破損通風筒一亡失
營造物	
名稱	破損概況
廳 舍	窓扉大部分破損屋根瓦天井裏一部破損 桌灯不能
兵 舍	窓扉全部破損屋根瓦相當破損(破孔) 桌灯不能
車 庫	側壁一部破損自動車充電器破損桌灯不能

隔離病室 <small>(旧武道場)</small>	治療室	病室	烹炊所	兵員浴室洗滌所	糧食庫	被服庫	防火要具庫	<small>(三標)</small> 練習部兵舎 同美濃所浴室	裝備庫
全壊	半壊ナルモ使用不能	窓ガラス、屋根瓦破損建物稍傾斜 窓ガラス、及屋根瓦破損	屋根瓦及扉類少損	側壁少損	窓ガラス、屋根破損壁一部脱落	半壊 (屋根大部分破損)			

1252



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1254



昭和二十年十月十六日

鎮海海軍港務部

鎮海警備府參謀長殿

被害状況調査報告

被 害 箇 所	財 産 番 號	坪 数	枚 数	量	記 事
廳舍硝子破損	鎮港第二號	五 八 坪	二 五 枚		煉瓦建築三階
海上掛入口戸鏢錠	"	"	二 個		
窓硝子破損	"	"	一 五 〇 枚		
監視所硝子破損	鎮港第四號	一 四 坪	一 枚		
入口扇破損	"	"	一 枚		

"窓硝子破損	"硝子破損	内務科金工場裏各扇破損	"窓硝子破損	"窓硝子破損	第一倉庫合扇破損	兵員便所窓硝子破損	"窓硝子破損	"便所渡廊下硝子破損	兵舎硝子破損	"窓硝子破損
"	"	鎮港水六號	"	"	鎮港第五號	"	"	"	鎮港第三號	"
"	"	延一〇〇坪	"	"	一〇五坪	"	"	"	二四九平米	"
四三枚	二枚	一枚	二枚	一個	二枚	二枚	三枚	二枚	七七枚	一四枚
		木造家屋二階建								



見張所入戸破損	鎖庫合引破損	"窓硝子破損	"合引戸破損	陸上倉庫硝子戸	綱具庫窓硝子破損	"窓硝子破損	"裏入口扇破損	第三倉庫硝子破損	鍛冶工場窓硝子破損	機庫科具庫窓硝子破損
鎮港第二號	鎮港第八號	"	"	鎮港第六號	鎮港第六號	"	"	鎮港第七號	鎮港第三號	鎮港第四號
一四坪	三六坪	"	"	八八坪	二〇坪	"	"	六〇坪	一二坪	一二坪
一枚	二枚	二枚	四枚	四枚	九枚	九枚	一枚	一四枚	三枚	三枚

			窓硝子破損	兵員寮 麻吹新設場入口 破損	窓硝子破損	阿衛詰所 硝子戸破損	窓硝子破損	自動車庫 硝子戸破損	窓硝子破損	硝子戸破損
			〃	假設鎮港第三號	〃	假設鎮港第三號	〃	假設鎮港第三號	〃	〃
			一五枚	一枚	四枚	一枚	一枚	一二枚	二〇枚	一枚
		(終)								



昭和二十年十月十八日

鎮海海軍病院

司令部中

被害状況ノ件報告

十月十五日爆發事故ニ依ル被害左ノ通り(保安隊ヨリノ報告ノ分ヲ含メズ)

記

一窓硝子破損五五〇枚

一窓棹破損三一枚

一天井破損一二箇所

負傷者 十三





2

昭和二十年十月十六日	鎮海海軍保安隊指揮官	鎮海敬言備府參謀長殿	爆發事故被害狀況報告	首題ノ件左記ノ通	記	死亡 九名	重傷 一名	輕傷 七名	窓硝子破損六六一枚
------------	------------	------------	------------	----------	---	-------	-------	-------	-----------

海軍

1261



23



昭和二十年十月二十五日

鎮海敬言備府軍法會議

鎮海敬言備中

防備隊ニ於ケル爆發事故ニ依ル被害報告  
首題事故ニ依ル當衛被害左記通

記

窓硝子破損拾八枚

(終)

軍

1263







昭和三十二年十月十五日				
爆發三依ル被害報告第三十八號駆潜艇				
一人員				
輕負者				
一名				
一艇体				
船名又ハ箇所	数称	数量	記事	
艦 橋	個	三	破孔	
左舷外側前部	"	一	"	
旗流台及側幕	"	二	爆風、爲亡失	
機室絛降履	"	一	"	

時報装置	二七糧信号燈	一兵器	冷藏庫扉	洗面器	艇長室扉	艦橋前面硝子	兵員用大便器(深式)	後部無線電柱	主計科小出庫
〃	〃		〃	個	枚	〃	〃	〃	〃
一	二		二	一	二	七	一	一	一
〃	亡		〃	〃	〃	破損	毀損	折損	破損亡失

1266



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1268

26



昭和二十年十月十五日

鎮海海軍軍需部長

鎮海警備府司令長官殿

爆發事故概報

一日時昭和二十年十月十五日 一四五頃

一場所防備隊ホ下山岸壁

一原因未詳

一被害状況

(ハ)人員 (ハ)危篤者(死亡)

主中尉 小松道衛(幼三三五)

海軍

1269

主少尉

佐志田啓次郎(辺三三五七八三)

(二)行方不明

上曹

福田英夫(佐志水四五三四八)

三重傷者

中尉

坂本繁之(三九八四四)

一機曹

吉田林三(吳徴機三五九三六)

書記

米原 馨

(四)物件

一八式爆薬二乃至三。屯焼失機雷約六。個爆發

三第一二三四機雷庫荷造作業場 電纜庫機庫事務室

各小破本部縣洞地帯各建物扉ガラス天井一部破損(終)

25

昭和三年十一月二十日

鎮守府司令部 海軍大臣 白川保

調査結果 海軍大臣 白川保

同

調査結果 海軍大臣 白川保

調査結果 海軍大臣 白川保

調査結果 海軍大臣 白川保

調査結果 海軍大臣 白川保

調査結果 海軍大臣 白川保

調査結果 海軍大臣 白川保

白川保

海軍

